

第7回川ごみサミット 参加者アンケート結果

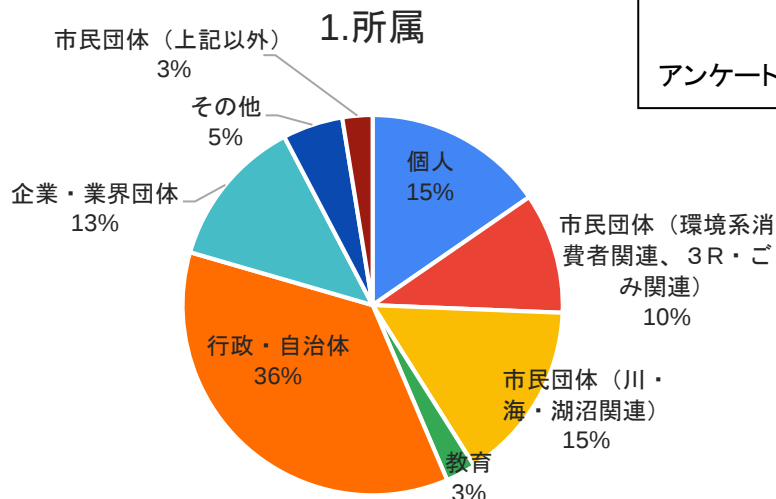
2021/12/19(日)開催日

申込者:98 名(スタッフ込)

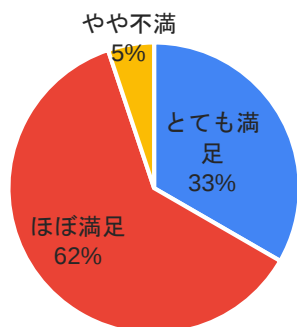
集合写真撮影時:オンライン 64 名(zoom 接続数)

+会場 5 名(スタッフ別)

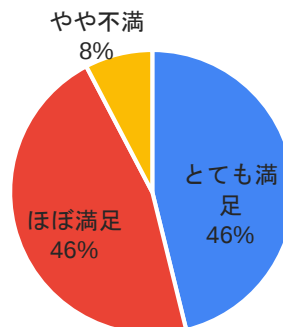
アンケート回答数:39 名



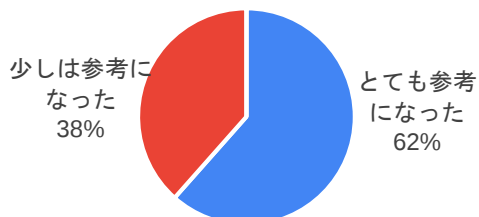
2. 今回の川ごみサミットの満足度



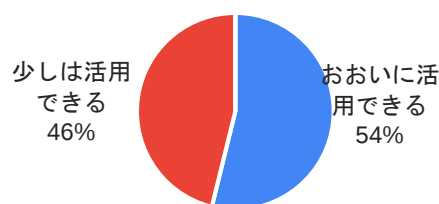
3. オンライン併用の開催



4. 川ごみ対策に向けて参考になりましたか？



5. 事例集・マップの今後活用？



1. 参加者の属性は、約 40%が市民および個人、35%が行政・自治体、約 25%が企業・団体・教育・その他であった。

2. 満足度は、2 名が「やや不満」、その他は「とても満足」また「ほぼ満足」。

3. オンライン併用開催については、遠方でも全国各地から参加できること、コロナ対策として、多くの方に満足いただけた。やや不満の方は、ネットでは傍観者の感となる、やはり膝詰めの意見交換をしたいなどであった。

4. 川ごみ対策に向けてでは、河川管理者の取組み、様々な情報を得たこと、対策事例集、ごみマップ、課題の共有ができた「とても参考になった」。

5. 今後の活用では、より多くの関係者に周知できれば大いに活用できる、普及に努めたいなど「おいに活用できる」。一方、使い方や目的が理解できていない、どのようにやるかが本題ということ等で「少しは活用できる」の回答があった。

6. 印象に残った内容としては、河川管理者が事例集に載るよう対策を頑張りたい、業界もかなり変わってきたなどのコメント内容や、千葉先生の話、雄物川ごみマップの配布、流域協議会、予算措置や法的枠組みがまだまだ未整備であることなど多岐にわたり各々に印象に残ったようである。河川管理者のご苦勞がよくわかったという回答と、河川管理者からは活動家の熱い想いが伝わったと相互を理解された回答も複数みられた。

7. その他意見としては、自治体の方にも参加いただきたい、意見交換の時間が少なかった等のご意見があった。

アンケート回答 - 自由記述部分の抜粋

3.オンライン併用開催について -その理由

とても満足	遠方から参加できた。(市民団体、行政・自治体、個人)
とても満足	コロナ等の感染の心配が無い。(行政・自治体、企業)
ほぼ満足	内容には大変満足。ハイブリッド開催の場合はオンライン参加者からのチャットについて紹介する配慮が頂けたら良かった。(市民団体)
やや不満	やはりネットでは、参加では無く傍観者な感が拭えない。(市民団体)
	膝詰めで温度感を感じながらの意見交換をしたい。(行政・自治体)

4. 川ごみ対策に向けて参考になったか？ -その理由

とても参考になった	国の動向、ゴミマップに関する情報など。(市民団体)
	国・全国における取組み状況、概要が把握された。(市民団体)
	「河川ごみ対策事例集」と全国の河川整備局の取組み状況が紹介されて参考になった。(市民団体)
とても参考になった	全国の河川管理者から直接話を聞いた。(教育)
	行政の取り組みがよく分かった。(市民団体)
	川ごみ対策に取り組んでおられる団体の生の声を聞いた。(行政・自治体)
とても参考になった	ごみの発生源対策について長年手詰まりだった感があるが、プラスチックごみの問題に関し、企業側も本気で取り組み始めたという報告があり、参考になった。(行政・自治体)
とても参考になった	抱えている課題は同じだなと思った。(その他)
	法律がない、また国も地方自治体もどうしたら良いのか・・・この答えがない事が解ったので粘り強く三位一体になれる機会を先ずはつくる事からという解決の糸口が解った。(市民団体)
少しは参考になった	どこでも同じような問題を抱えていることが分かった(市民団体)
少しは参考になった	海洋プラスチックごみに対する即効性のある行動、知見はあまり目立たず、従来からのクリーン活動、啓蒙活動が中心でしたので、現状以上の取り組みは難しいのだろうと推測する。(個人)

5. 事例集、マップは今後活用できそうか？ -その理由

おおいに活用できる	様々な事例が紹介されているため、その中から地域に応じた対策を取りやすい。(行政・自治体)
おおいに活用できる	川ごみマップには、他の河川でも大いに参考にすべき工夫されたものや、制作者・関係者の魂がこもったものがある。(行政・自治体)
おおいに活用できる	流域住民との情報共有の在り方に関し参考になった(市民団体)
おおいに活用できる	立派な川ごみマップが作られているのにも関わらず、その存在がほとんど市民に知られていない。少し予算を掛けて、普及を民間に委託することで、活用されてゆくのではないだろうか。中小河川の管理者である市町村にも川ごみマップや散乱ごみマップを作成させ、それをSNSで容易にチェックできるようにするような仕組みを合わせて構築することで(民間を利用)、川ごみマップへの認知度が高まるように思う。(教育)
おおいに活用できる	作るだけでなく、より多くの関係者に周知できれば大いに活用されると考えられる。(個人)
おおいに活用できる	行政だけでは無理なこと。これまでの広報に加えて、関係者を巻き込むツール、教材としての活用を考える。(行政・自治体)
おおいに活用できる	HP公表の他に発信できる機会を作りたいと思った。(行政・自治体)
	私も普及に努めたいと思います。(個人)
	自分もできる範囲で川ごみへの関心を高める活動をしていきたい。(企業)
少しは活用できる	マップは関心者を増やす点で効果があり低減対策の一歩とは思いますがどのようにやるかが本題(個人)
少しは活用できる	まだ一つ使い方 目的が理解できておりません。(市民団体)
少しは活用できる	地域によって状況は異なるものの、取組事例は参考になる。(行政・自治体)
少しは活用できる	やはりまず現状を知っていただくことは大切だと感じています。そのためには、川ごみマップは有効だと思います。(個人)
少しは活用できる	川ごみマップの活用によって、非常に効果的なゴミ減少に繋がったという事例があれば良い。(行政・自治体)

6. 印象に残った内容

	事例集に載せられるように、川ごみ対策を頑張りたいとの河川管理者(近畿地整)からの意見が素晴らしく、感動した。(企業)
	プラスチック工業連盟の方が、「業界もかなり変わってきました」と、確信を持っておっしゃったこと。(市民団体)
	四日市大学 千葉先生の川ごみとしてのPETボトルの調査結果の捉え方の違い。(行政・自治体、企業)
	雄物川のゴミマップ配布に関して(市民団体)
	九州ではとりまとめを外郭団体にまかせることでうまくいっているという話。(個人)
	環境省、国土交通省の方が、最新情報を共有してくださる事は、非常に有意義。今後もお願いできればよい。(個人)

①流域協議会、②ゴミマップ、③いつでもできるゴミひろい、④川ごみは意識しないと見えない、⑤仕組みと法制度の重要性(市民団体)
事例発表が多く大変ありがたかった。(市民団体)
河川管理事務所のご苦労が良く分かりました(教育)
活動家の皆さまの熱い想いが伝わってきました。(行政、自治体)
国土交通省の取り組みを広く知れて良かった一方、成果報告会までで終わってしまった感じがした。(その他)
「川ごみマップの意義と活用」における、情報のリテラシーの事。川ごみ処理の政令による仕組みができていないこと。(市民団体)
海のごみ 法律はあっても未だ川のごみ法律はないという事。今後は法整備含めて、誰か一つの箇所責任にさせるのではなく国、自治体、住民活動で合意形成をしていく事、またその過程が重要かと思った。(市民団体)
河川内に漂着したゴミを回収するための予算措置や法的な枠組みがまだまだ未整備であることに對する様々な意見は参考になった。(行政・自治体)
当事者意識(市民団体)
「人任せにしない」ということ。流域で生活する個人、企業などみんなの問題であることがわかった。(個人)
川ごみ対策は市民団体の啓発活動が大切(行政・自治体)
清掃活動をしなくてもゴミの発生自体が減らない地域もありますので、啓発し地域の方々の意識を向上することが重要だということが印象に残った。(行政・自治体)
掃除するよりゴミ出させない取り組み良いかもと感じた。(行政・自治体)
元の考え方が変わらなければ減らずこの問題を市民に見えるかしなければ解決につながらない(市民団体)
意見交換は、2部構成が良かった。意見交換では、展開のシナリオにそってポイントを話し合ってもらうと、なお良かった。全国の動きが共有できたことがよかった。ただし、川ゴミを減らすためにどういった方策がよいかと、いまだに議論が続いている現状はまだ残念。ゴミ対策は地域づくりになる。川は水系、すなわち関わる流域の市民・行政・団体・企業・学校といったすべてに関連し、どう社会問題とリンクさせていくかでしょう。(市民団体)
川ごみ自体を減らしていく取り組みが大切であると同時に、今あるゴミは、流れ着いた先で処理するしかないという現状認識が興味深かった。
また、川ごみ自体を減らすためには、教育が大切という点にも、深い共感を覚えた。ゴミの散乱をしっかりと防げるタイプのゴミ集積所の実例も、全国に広がって欲しいと思いながら拝見した。(個人)

7. その他ご意見・ご感想

川ごみ対策は、それぞれの機関、住民等と一緒に取り組むことの重要性を再認識した。(行政・自治体)
自治体含め、行政と団体、地域の住民の方々との連携について、今後も課題を共有しながら発展させていくためのきっかけの場になればと感じる(行政・自治体)
気がつかない部分(水路沿いのゴミ収集所)への対策などもあり、具体的な気づきになった。(企業)
毎年回収するゴミの量が一向に減らないので、頭を悩ませています。皆さん同様の状況で様々な努力をされていることがわかり、難しい問題であることを改めて感じました。水質は良くなっている川が多いようなので、ごみを減らすこともできると信じます。今後とも諦めずに取り組んでいこうと思う。(個人)
今後は、代表市町村の参画により、熱心に活動されているところを中心に意見等を聞ければ幸い。(行政・自治体)
管理者側の川ごみに関する窓口が明確でなくどこに相談したらよいのか全く分からない。特に市町村側は、河川のことは、河川事務所に行ってくれと全く相手をしてくれない。今日も話しの有ったごみの発生源になる元の問題が市町村が担わないと解決できないとなるともっと市町村での川ごみ問題の認識を深めていかないと先に進まないと思う。(市民団体)
川ごみを回収するにあたり、その「処分費用」が大きなネックになるという点は、昔も今も変わっていない、というのが最も印象的でした。(個人)
道路・交通・弁当・飲み物・販売など普段散乱するごみ。地域を挙げて取り組みが必要。そこが地域づくりと密接だと思う。学校で限界なら教育委員会などがもっと、地域の川に関わる市民団体を支援し育成し評価していく事がとても重要だと思う。(市民団体)
国交省の事例集も構想段階からすでに3年以上が経過し、SNSの活用、感謝状の贈呈など注目すべき取り組みが増えてきているため、何年かごとに事例集を更新・周知していくことが必要ではないでしょうか。(個人)
全体的にテーマが広すぎて、内容が浅いままで終わっている。各地整の発表も3分という時間で求められる内容を説明するのは難しい。中身のない発表は不要と思う。また、休日開催では、行政機関の担当者に広く聴講してもらうことは困難。(行政・自治体)
勉強になりましたが、意見交換の時間が少なかったのは残念。(市民団体)